

1 基本計画策定にむけての経緯と体制

(1) 国立駅周辺まちづくり計画検討委員会について

1) 計画検討委員会の検討の目的

国立駅周辺まちづくり計画検討委員会は、平成 13、14 年度の二ヵ年度にわたって、中央線連続立体交差事業に伴う国立駅周辺のまちづくりの方向性について、庁内職員による「国立駅周辺まちづくり計画検討委員会」を設置し、検討を進めてきたものである。本検討は、総合的な駅周辺のまちづくりの方向性と、個別課題に対する具体的な計画手法をまとめ、平成 15 年度に実施される市民参加による駅周辺まちづくり計画の策定に向けた基礎資料とすることを目指したものである。

2) 計画検討委員会の報告のあらまし

同委員会の報告のあらましについては、平成 14 年度「国立駅周辺まちづくり計画検討委員会報告書」にまとめられているが、その主な要旨は以下のとおりである。

- 南北交通の円滑化のための都市計画道路 3・4・10 号線、西一条線の整備
- 国立駅舎の保存活用と南北駅前広場の整備、通過車両の抑制
- 南口公共施設等用地と高架下の連動した活用
- その他、関連する周辺市街地整備

(2) 国立駅周辺まちづくり検討会

国立駅周辺まちづくり検討会は、こうした庁内における検討をもとに、今後の市のまちづくり計画に、市民の意見・要望を反映させるため、平成 15 年度、市長の依頼を受け、市民参加による国立駅周辺まちづくりの検討を行ったものである。構成員としては、自治会代表 2 名、商工会代表 1 名、市民団体（赤い三角屋根の会）代表 1 名、市民公募により選出された委員 4 名、学識経験者 2 名の 10 名である。会長には、北沢猛（東京大学工学研究科都市工学科助教授）が互選された。

同検討会は、国立駅周辺のまちづくりの方向性と整備例について、約一年をかけて 7 回の検討会を開催し、検討を進めてきた。同時に、広く市民の意見や要望を吸い上げるため、不特定多数の市民を集めてのワークショップ（6 回）、特定の市民の元に出向いてのインタビュー（10 回）を実施している。

同検討会による、国立駅周辺まちづくりに関する提案書は 4 月に国立市長に対して提案される予定である。

(3) 本資料の位置づけ

本資料は、整備計画等実現に向けた諸計画の基礎資料として、平成 15 年度に実施された国立駅周辺まちづくり検討会の検討と市長提案をもとに、その内容の実現化に向けた検討を行ったものであり、部分的に整備例の具体化を図ったものである。